

# 民生文教 常任委員会 Report

## 老朽化した社会体育館について調査 大規模改修工事により 長寿命化

委員長 原 利幸 委員 石内 國雄  
副委員長 小林 一幸 浅見 武志  
宇津木 治宣

所管事務調査日：令和3年1月15日



傷みが激しい社会体育館の外壁



ロッカー・シャワー室



トレーニング室の視察

**●社会体育館とは**  
社会体育館は、昭和58年あかぎ国体の銃剣道会場として建設され、39年が経過し、老朽化により至るところに傷みが見られる。  
令和2年度には長寿命化を図るための大規模改修工事の実施設計が行われた。  
令和3年度に改修工事を実施し、今後20年間使用することを目標とする。財源には令和3年度までに限り発行できる地方債を活用する予定となっている。

**●改修工事の内容**  
既存の建物をそのまま活用し、外壁や体育館内の壁や天井、アリーナの床の張り替えなど、古くなった箇所や損傷が激しい部分を基本に長寿命化のための改修工事を行う。  
また、利用者の多いトレーニング室にはエアコンを新設する。ロッカー・シャワー室も利用しやすいよう改装を行う。

### まとめ

この改修工事計画では、予算措置が十分でないため、アリーナ部分の空調設備を諦め、利用者が多いトレーニング室のマシンは老朽化したままというものである。利用者の視点からは中途半端な改修工事と見えるだろう。  
臨時的な地方債を財源として活用しているが、改修内容に不足する点がないか、また、今が最適な時期なのか、慎重に検討する必要があると考える。  
住民に対し十分な説明責任を果たすことを求める。

# 総務経済 常任委員会 Report

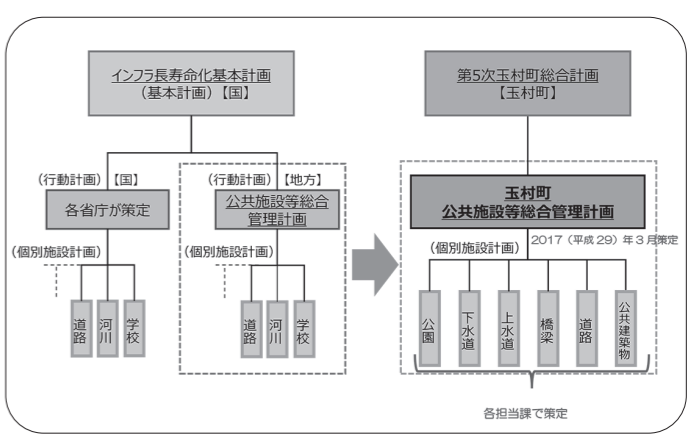
## 公共施設個別施設計画(建物)の策定状況を調査 しっかりとした計画をつくり、 確実に実施を

委員長 月田 均 委員 柳 沢 浩一  
副委員長 新井 賢次 高橋 茂樹  
久保留美子  
備前島久仁子

所管事務調査日：令和3年2月4日



令和3年度改修予定の社会体育館



国の計画と町の計画の関連



今後改修が必要な役場庁舎

**●計画策定の背景**  
平成24年、山梨県の中央自動車道笹子トンネルで天井板が落下する事故が発生し、9名の命が失われた。  
この事故を契機に、社会インフラの老朽化対策が喫緊の課題として強く認識されるようになり、国は全国の自治体にインフラ長寿命化計画、公共施設等総合管理計画及び個別施設計画の策定を要請した。町では公共施設等総合管理計画を平成29年3月に策定しており、現在その計画に基づき個別施設計画を策定している。

**●計画の内容**  
78ある町の公共施設のうち、次の条件に合致する15施設30棟を個別施設計画の対象とする。  
・直近10年間で更新等が必要なものの個別計画が策定されていないもの(学校教育施設、公営住宅、クリーンセンター、消防団詰所は除く)  
・今後も継続して使用していくもの  
・延床面積が100㎡を超えるもの  
策定に当たっては、屋根、外壁、電気設備等の老朽化、劣化状態の実態調査を行い、今後10年間の実施計画を作成する。

### まとめ

公共施設個別施設計画策定の背景には過去集中的につくられた建物・インフラの老朽化、厳しい財政状況、人口減少による公共施設に対する需要の変化などが挙げられる。  
公共施設はつくる時代から計画的な保全措置により維持管理し、長寿命化を図り、使用していく時代に入ってきた。そのため今回の計画は重要なものであり、確実に実施することを望む。  
なお、ほかの個別計画やインフラ計画との整合性もあるため、それらを考慮して実施することが必要と考える。